

臨床実習Ⅲ指導報告書(説明)

京都大学医学部人間健康科学科 作業療法学専攻

学生氏名

実習施設名

(身体障害・精神障害・発達障害)

実習指導者氏名

実習期間 年 月 日 ~ 年 月 日 (Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ期)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
月日	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
出欠										

欠席月日/理由

- ()
- ()
- ()

評価基準

- 4 わずかな指導・助言があれば行える
- 3 模倣学習にて一応の目的を達成している
- 2 模倣学習でも十分には行えない
- 1 模倣学習でもほとんど行えない
- 0 模倣学習も不可能である

評価集計

項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	小計	総計
Ⅰ. 基本的態度													/24	① /80
Ⅱ. 評価													/48	
Ⅲ. 記録・報告													/8	

↓

①×5/4
%

合・否

60%以上を合とする

I. 基本的態度

項目	内容
1. 時間、規則、心得を守る	決められた規則や心得、その施設で設けられている学生の任務と本分を守ることができる。 ①遅刻、欠席の報告 ②決められた服装 ③物品の管理 ④対象者情報（カルテ、ノート等）の管理 ⑤居所の報告 等
2. 社会人にふさわしい身だしなみ、態度、言葉遣いをする	相手に不快感を与えないような社会人として望まれる身だしなみや態度、言葉使いができる。 ①不快感を与える言葉使い ②公私のけじめ ③挨拶 ④態度（腕組み、頬づえ等） ⑤だらしない、汚い、華美な服装 ⑥頭髪、爪、髭 ⑦学生同士のおしゃべり ⑧携帯の使用 ⑨状況の判断 ⑩守秘義務 など
3. OT職員、他職員と適切なコミュニケーションをはかる	必要な時に、OT職員や他の職員との交流を保てるようなコミュニケーションをとることができる。 ①わからないこと、不明なことは積極的に助言を求める ②意見を謙虚に聞く など
4. 対象者と適切なコミュニケーションをはかる	対象者の状況に合わせた態度や言葉遣いをする事ができ、サービス提供者としての態度で接する。公私の区別、信頼関係、家族との関係も含まれる。 ①敬意を払った丁寧な言葉遣い、態度 ②対象者を予測のつかない状態にしない ③対象者にとってわかりやすい言葉で話す ④対象者の話、意見をよく聞く ⑤共感的な態度で接する ⑥自分の誤りや失敗について謝る など
5. 作業療法への関心を持ち、意欲的に取り組む	作業療法に対する探求心や意欲、積極性が態度や行動にみられる。 ①文献や資料の活用 ②積極的な質問 ③指導者、他のスタッフとの意見交換 ④積極的に指導を求める など
6. 与えられた課題を期限内にきちんと遂行する	レポート等の提出期限を守る。課題を計画的に仕上げる事ができる。 ①提出期限の厳守 ②計画的な課題遂行 など

II. 評価

項目	内容
1. 疾患、障害について理解する	担当した対象者の疾患・障害に対する基礎的な知識を備え、必要に応じて有効に活用することができる。 ①文献や資料を活用して対象者の疾患・障害に対する理解を深める ②対象者の疾患・障害で実施される一般的な評価方法・項目を知る ③質問をする など
2. 適切な評価方法を選択する	どのような情報を得るためにどのような評価を行うのか。観察、面接、検査測定など、対象者を理解するために適した評価方法を選択できる。 ①評価項目・方法を選択できる ②選択した評価の目的が説明できる など
3. 必要な情報を収集し、整理する	対象者のよりの確な評価を行うために必要な情報を適切な方法で収集し、整理できる。 ①どのような情報を得たいのか整理する ②情報を得るための方法を考え、情報を収集する ③必要があれば他部門と連絡をとり日程や手順を組む ④得られた情報を整理する ⑤情報を管理する など

項 目	内 容
4. 評価順序を選択する	<p>選択した評価方法をどのような順序で行っていくのか。対象者の状態により優先順位を選択できることと、1つの方法（例：MMT）の中の順序を選択できる事も含む。</p>
5. 選択した評価方法実施のための準備をする	<p>必要な材料、器具、場所の確保ができる。 対象者へのオリエンテーションの方法や評価技術の予習、実施のために必要な工夫等が含まれる。 ①必要な器具、適切な場所、時間を確保する ②事前に対象者に評価内容をオリエンテーションする ③評価にあたって適切な行動をとる（報告や指示指導者の同席を求める等） ④十分に予習を行う など</p>
6. 選択した評価方法を実施する	<p>適切な方法で評価実施でき、その間の対象者の反応を観察し的確に捉えることができる。またその場の状況に合わせて、必要ならばより適切な実施方法に変更できる。 ①適切な方法で評価できる ②対象者の表情、反応を観察できる など</p>
7. 心身のリスクを考慮して対応する	<p>安全性を第一に考慮した対応ができる。身体的及び心理的安全性、治療環境の安全性などに関し、対象者のリスクに関する知識を備えている。 ①情報から対象者の心身のリスクを把握する ②安全な姿勢、肢位、環境を確保する ③対象者から目を離さない ④対象者を予測のつかない状態にしない など</p>
8. 実施した評価結果をまとめる	<p>各評価方法の評価結果をそれぞれまとめ、整理することができる。 ①行った評価の結果をまとめることができる ②評価中の対象者の反応をまとめることができる など</p>
9. 評価結果から全体像をまとめる	<p>行ったすべての評価結果をICFに基づきまとめることができる。 ①心身機能・身体構造について ②活動について ③参加について ④環境因子と個人因子について ⑤それぞれの因果関係について など</p>
10. 作業療法の対象となる生活機能と障害について焦点化する	<p>対象者の状態、現在及び将来の生活を考慮して、問題点の焦点化ができる。 ①肯定的側面と否定的側面 ②優先順位 など</p>
11. 適切な作業療法目標を設定する	<p>対象者のリハビリテーションゴールに沿った作業療法目標を設定することができる。 ①対象者のリハビリテーションゴールを説明する ②長期目標と短期目標を設定する ③ベースラインデータを明確にする ④長期目標と短期目標の関連づけを説明する など</p>
12. 治療計画立案を試みる	<p>作業療法目標を到達するための具体的治療手段・内容を検討する。 ①治療手段の選択 ②具体的活動の説明（目的、道具、材料、姿勢、段階付け等） など</p>

Ⅲ. 記録・報告

項 目	内 容
1. 記録、報告に必要な内容を選択する	評価実施から得た情報の中で、カルテや報告書に記載すべき事柄が過不足なく選択されている。
2. 専門用語を適切に用い、簡潔な表現で記録・報告する	観察, 実施したことを, 客観的事実に基づいて、簡潔に文章・口頭で表現することができる。正確な専門用語を適切に使用することも含む。 ①正確な専門用語の使用 ②読みやすい文字での記載 ③簡潔な表現での記載、報告 ④対象者の状態などを口頭で報告する など

Ⅳ. 実習指導者による学生に対する今後の課題

日付

指導者署名

Ⅴ. 学生の感想・反省・今後の課題

日付

学生署名